

尼っこの健康に“黄信号”

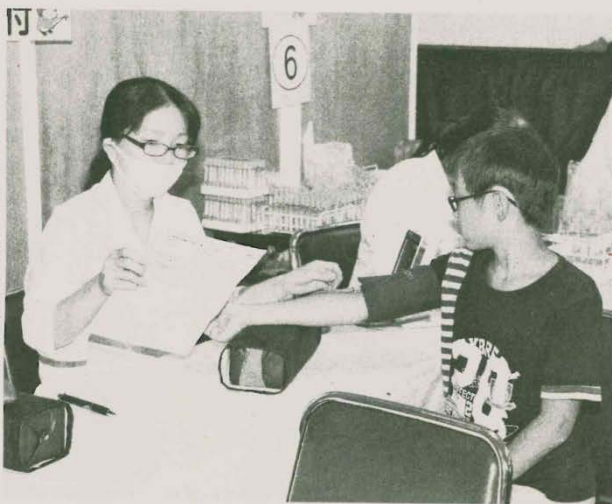
小5・中2健診

糖尿病予備軍3割

小学生の血液検査で基準値を超えた割合（―は検査なし）

	尼崎市	大分県別府市	香川県
中性脂肪	22%	14%	4%
HbA1c	26%	0%	8%
尿酸値	17%	0%	―

尼崎市内の小学5年生と中学2年生の健診受診者の約3割が、血液検査の基準値を上回る糖尿病予備軍であることが、市が実施した「尼っこ健診」の結果でわかった。また、痛風予備軍は約2割に上り、中2の約2割は血圧に異常がみられた。他都市の子どもと比べても高い割合で、市は、健診受診率の向上と、保護者を含めての保健指導に力を入れている。（脇孝之）



「尼っこ健診」で血圧測定してもらった小学生（今年8月、尼崎市で）

市では、子どもたちに自分の体の状態を知ってもらい、正しい生活習慣を身につけてもらうため、2010年度から健診を開始。身長、体重、血圧測定、尿検査のほか、血液検査で血糖値やコレステロール値、尿酸値などの項目を調べる。夏休みと冬休みの年2回、小5（11歳）と中2（14歳）の全児童・生徒を対象に希望者に無料で実施する。昨年度の健診では、両学年とも糖尿病の判定に使われる「HbA1c」が基準値（5・6未満）を超えていたのは、小5の受診者（約1400人）のうち26%、中2（約800人）のうち29%だった。

尿酸や血圧も他都市より高め

ほかにも、小5は動脈硬化の原因となる中性脂肪、痛風につながる尿酸で基準値を超えた割合は、それぞれ22、17%。中2では、脳卒中につながる血圧が21%、尿酸が20%だった。日本学校保健会によると、血液検査は全国で小学校約22%、中学校約25%が実施。HbA1cが基準値を超えたのは、小4では、香川県16市町が8%、大分県別府市が0%にとどまっており、尼崎の子ども数値の高さが際立っている。尼崎市健康支援推進担当では、糖尿病予備軍が多い原因を「ジュース、スポーツドリンクの飲み過ぎや甘いお菓子の食べ過ぎ」と推測。中性脂肪は、弁当やから揚げの食べ過ぎ、尿酸は肉や魚の取り過ぎが要因とみている。市では生活習慣の改善のため、保健師らが検査結果に基づき、親子を指導する。市の担当者は「父親が脂っこい物を好むと、どうしても油を使った料理が多くなってしまつので、親も交えて指導していきたい」と話している。